# 支援便り

令和５年11月発行　　第６号
串木野特別支援学校　支援部

先日，日置地区県立学校長会が本校で開催され，各高等学校での特別支援教育の取組について話題にしていただきました。今号は，その取組と課題について紹介します。

## 高等学校における特別支援教育の取組と課題

～　日置地区県立学校長会の情報から　～

### Ａ高等学校

「特別支援教育全体計画」を作成し，特別支援教育コーディネーターである教育相談係を中心に，支援体制をつくり取り組んでいる。

○　**中学校からの引継ぎと職員共通理解**

３月に中学校訪問。４月の職員会議で特別支援教育の動向や法的根拠，本校の現状，年間計画，生徒理解を深めるための心構えなど提案し，職員の共通理解を図っている。

○　**特別支援対策委員会**

特別に支援が必要な生徒（発達障害や情緒障害など様々な困難を有する生徒や不登校及び不登校傾向にある生徒）の出席状況や学習生活の状況について確認し，支援の方策を検討し，必要に応じてケース会義につなぐ。

○　**ケース会議**

個別の指導計画・教育支援計画に基づいて，支援が必要な生徒の学習や生活面等の情報交換及び，点検・見直しを行う。必要に応じて職員会議等で共通理解を図り，支援につなぐ。

○　**教育相談係**

支援が必要な生徒への日常的な声掛けによる安全・心身等の見守りや，担任等との連携を図る。

○　**スクールカウンセリング**（年12回）

生徒・保護者との教育相談により，スクールカウンセラーが状況に応じて対応する。

○　**学習三者面談**（７，12月）

学習の進め方や履修・習得について学習相談を行う。

●　**課題**

実態把握の際，学習のつまずきが生徒本人の努力不足によるものなのか，障害特性によるものなのか分かりづらい。

### Ｂ高等学校

○　**関係機関との連携**

聴覚障害の生徒が在籍しており，鹿児島聾学校と連携しながら取り組んでいる。

●　**課題**

①　各学年，支援を必要とする生徒が多数在籍しているが，中学校から移行支援シートや個別の指導計画等の支援に関する引継情報がほとんどない状態で入学してきている。

②　特別支援教育コーディネーター以外の職員の特別支援教育に対する理解がまだ十分でない。

### Ｃ高等学校

○　**情報の共有化**

小規模校で人数が少ないため，生徒一人一人の実態が把握しやすく，職員間で情報共有や支援の理解ができている。

### Ｄ高等学校

○　**ニーズに対応した支援**

文字を読むことに困難さを抱える生徒が在籍しており，文字を読みやすくするための合理的配慮として，その生徒が在籍する学年の職員は，文字を全てＵＤフォントで統一し，教材やプリント作成に取り組んでいる。

●　**課題**

聞くことに困難さを抱えているのではないかと思われる生徒が在籍しているが，事前に中学校からの情報や引継ぎに関する資料等はなかった。

**今回，高等学校でも特別支援教育の取組が着実に推進されていることが分かりました。また，中学校から高等学校への切れ目ない支援の充実がますます求められていると感じることでした。**